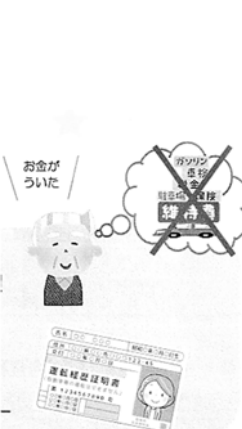


高齢者相談センターどおりいむでは、高齢者の日常生活上のあらゆる相談に応じています。お気軽にご連絡ください。（相談は無料です）

★運転免許証の返納について

★自動車運転しないメリット



- ・車の維持費がかからない（車検、給油、税金、保険料等）
→自家用車を運転すると、年間約25万円かかる！
※車検、走行距離等によって金額は異なります。
- ・タクシーの乗車料金の減免がある（1割引き）
→運転経歴証明書が必要。
お問い合わせ先：警察署または運転免許センター

★買い物・病院受診のお手伝いサービス

商品を自分で選びたい
生協
購入した商品の配達サービス
荷物を運ぶ負担を解消。
保存できるものをまとめて買うことができる。
※配達サービスを実施していない店舗もあります。
また、配達できない商品もあります。



お弁当や食材の配達
配食サービス
タクシーで受け取り代行サービス

※配食サービスを利用したいときは高齢者相談センターどおりいむに相談ください。
タクシーの受け取り代行については詳しく掲載します。



歩くことが難しく移動には介助が必要
介護タクシー
車の乗り降りはもちろん、その前後の介助も受けられる。
車いすにも対応



★見守りについて

親はご近所付き合いがあまりない

一人暮らしの高齢の親が心配

近所付き合いはあるけど毎日声をかけてもらうのは難しい

見守りカメラは抵抗がある

民生委員さんちよく気に掛けてくれるけど、子どもの立場からも遠くにいても見守りがしたい

今回は高齢者向けの見守り家電について紹介します。
つづく

ごみの
ポイ捨てはだめ
ごみのない



きれいなまちに

犬のフンは
飼い主が



責任を持って持ち帰りましょう！

飼い主のモラルに期待します。

4 初期火災を消火する

消火器は、最も基本的な初期消火のための設備で、事業所などには原則として歩行距離20m以下となるように配置されています。

いざという時にすぐに消火器が見つかるよう、消火器の設置個所には「消火器」と表示した標識を見やすい位置に設けることとされています。
消火器の操作方法は簡単です。本体容器に必ず操作方法が表示されています。また標識に併せて表示されていることもあるので、確認しましょう。
各地の防災センターなどで操作方法を一度体験しておくとうまくいきます。

消火器



消火器に使われている薬剤等により、適応する火災の種類が異なります。

火災の種類は、普通火災 (A火災)、油火災 (B火災)、電気火災 (C火災) に分類されますが、適応する火災については消火器本体に表示されています。



普通火災 (A火災)



油火災 (B火災)



また、家庭でよく使われる住宅用消火器には、住宅火災の特性に応じた次の表示がされています。



いずれの種類火災にも適応する消火器があります。

一般的によく設置されている消火器には粉末 (ABC) あるいは強化液の薬剤が用いられています。これらはいずれの種類火災にも適応しています。

屋内消火栓設備

火災が拡大し炎が天井面に達しそうであれば、消火器での初期消火は危険です。屋内消火栓設備が設置されているのであれば、消防隊到着までこれを利用した初期消火を行います。屋内消火栓設備の操作方法も難しくありません (消火栓ボックスの扉に操作方法が表示されています。)



特に左のピクトグラムが表示されている屋内消火栓設備は、一人で操作可能なものですから、建物関係者の方は訓練等を通じて操作方法を覚えておきましょう。

5 建物内での火災から非難する

多くの人が利用する建物内で火災が発生した場合、非常口を見つけて安全に避難しなければなりません。避難を容易にするための設備が誘導灯です。
火災で停電が発生しても、非常電源を備えており、誘導灯の灯りを辿って行けば容易に非常口を見つけることができるよう設置されています。

通路誘導灯

矢印が示す方向に辿って行けば非常口が見つかるように廊下などに設置されています。



避難口誘導灯

屋外に出ることができる出入口のほか、階段室や廊下に通じる部屋の出入口付近などに設けられています。



POINT! 日頃見過ごしていることが多い誘導灯の設置個所を確認することにより、火災時の避難経路や非常口の位置を再確認しておきましょう。

また、旅行や仕事でホテルなどに宿泊する際は、部屋に着いたらまず避難ルートを確認しましょう。



階段が使えない場合は避難器具を使いましょう。

火災が起きたときは階段を使って避難しますが、階段が1つしかなくてその付近が燃えている場合などには、避難器具が設置されていればこれを使って避難することができます。

避難器具は、普段あまり気に留めることがないかもしれませんが、避難器具が設置されている場所には次のような標識が掲げられています。

避難器具

避難器具が設置されている場所やその使い方を事前に知っていれば、いざという時落ち着いて行動できます。

避難はしご

マンションのベランダなどに設置されている避難はしごは、他の部屋にお住まいの方の避難のためにも使用されるものです。

避難ハッチの蓋の上や隣接住戸との間の隔て板の前面に物を置かないように注意しましょう。

